

平成19年10月5日(金) 9:35～9:40

「第3回アジア科学技術フォーラム」
松浪文部科学副大臣来賓挨拶(案)

ご出席者の皆様、文部科学副大臣の松浪健四郎でございます。本日は、第3回アジア科学技術フォーラムの開催に際し、来賓としてご挨拶をさせていただく機会をいただき、大変光栄であります。

現在、アジア地域においては、大地震や津波をはじめとする自然災害、鳥インフルエンザ等の感染症問題、そして工業化の進展等に伴う環境・エネルギー問題などが、大きな共通の課題となっております。科学技術を用いて、これらの諸課題に取り組んでいくためには、各国間において研究者のみならず、政治家、行政官等、様々な人々の間での緊密なネットワークとパートナーシップの構築が必要であります。

本日は、アジアを中心とする14カ国・2機関から科学技術の推進に係わっておられる研究者、政府関係者等、多くの関係者※にお集まり頂き、先ほど申しあげたような地域共通の問題への協力と、そのために必要な科学技術レベルの向上について、議論がなされると承知しております。アジア地域の持続的発展を実現して行く上で、大変重要な会議であると考えます。

※事前登録: 約250人(9月27日現在)

我が国は、昨年3月に5ヶ年の科学技術政策の方向を定める「第3期科学技術基本計画」を閣議決定しております。この基本計画において、我が国は、アジア諸国との科学技術連携の強化を大きな柱に位置づけております。

この基本計画を受けて、文部科学省では、2006年度から振興調整費約8億円を充当し、「アジア科学技術協力の戦略的推進プログラム」を新たに設け、アジア諸国と、現在、防災、感染症、環境等の

分野で21件の共同研究を推進してきているところです。

また、これとは別に、新興・再興感染症の対策のために、2005年度から「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」を設け、アジアを中心とした国々に海外拠点を設置しているところです。アジアについては、本年度は既存のタイ、ベトナム、中国に加え、新たにインドネシア、インドに拠点を開設することとしており、共同研究を通じて、基礎的知見の集積と人材育成を図って参る予定です。

さらに、我が国の陸域観測技術衛星「だいち」等による災害情報を、アジア地域で共有するための「センチネル・アジアプロジェクト」を2006年10月に立ち上げるなど、我が国の宇宙技術を活用した防災の分野などでも協力を進めているところです。

なお本日午後、本フォーラムと並行して、これらの協力を深め、さらに新たな協力プロジェクトを押し進めていくため、ASEAN COST +3(日中韓)会合が各国科学技術担当省庁代表の方々の出席の下、このホール内で行われる予定であります。本会合では、参加国が相互に利益と関心のある分野における協力の可能性について議論されると伺っており、多くの成果が上がることを念願しております。

終わりに、本フォーラムの活動を通じ、関係者の間での情報交換、議論が促進され、アジア地域の抱える諸問題に関する科学技術協力が一層力強く推進されることを強く期待しております。今回、本フォーラムにおける3カ年の議論の成果を取りまとめ、提言がなされると伺っており、この提言をもとに日本としても、アジアの科学技術のプログラムの充実に一層努めることを申しあげまして冒頭の挨拶といたします。

ご清聴ありがとうございました。